

# Vocabulary Teaching in English Language Education: A Survey of High School Students' Dictionary Use

教科・領域教育専攻  
言語系コース (英語)  
細井 一成

指導教員 山森 直人

## 第1章 序論

近年、グローバル化が急速に進み、一部の職業や職種だけに限らず様々な場面で英語が必要となることが予想される。このような状況の中で、2020年の東京オリンピックを目処に順次改訂が実施される予定の新しい学習指導要領では、生徒が学習する語彙数が中学校で400~600語、高等学校では700語程度増加している。また、今日では、情報機器の普及が当たり前になり、大人のみならず子供から高齢者まで幅広い世代でスマートフォン等のデバイスが使用されている。それに伴い、情報メディアにも著しい発展が見られ、その影響は辞書にも及ぼされている。これらのことを踏まえ、本研究では、英語教育において行われる語彙指導において辞書機能を備えたメディアが進化していく中で、どのような辞書指導をしていくべきかを検討することを目的とする。

## 第2章 先行研究の概観

2.1 では、英語教育における語彙習得に関する先行研究をまとめる。英語学習において、語彙習得は避けては通れない重要事項の1つである。英語学習者の目標習得語彙数に関して、Nation (1993)は約5,000語と述べている。また、語彙数を豊かにすることが、その言語における4技能の運用に影響することも述べられている (Nation, 1993)。

英語学習時、未知語に出会うことは避けられない。そこで重要な役割を果たすのが辞書である。2.2 では、様々な辞書の、英語学習者の語彙習得に与える効果や短所を、先行研究をもとにまとめた。焦点を当てた辞書は、モノリンガル辞典、バイリンガル辞典、バイリンガライズド辞典の3種類である。

また、英語指導者として学習者の辞書活用状況を把握しておくことは重要である。そこで、2.3 では、学習者の英語学習における辞書使用の状況に関する先行研究をまとめた。

2.4 では、これらの3項でまとめた先行研究を要約すると共に、それらをもとに本研究における調査課題の設定を行った。

## 第3章 調査1 英語学習者の辞書使用の現状

メディアの発達により電子辞書やスマートフォンアプリ等多くの種類の辞書が登場してきている近年、効果的な辞書指導を行うために、指導者は学習者がどのように辞書を活用しているのかという実態を把握しておく必要がある。そこで、本章では公立高等学校における高校生の辞書使用の実態調査を目的とした。

3.2 では、某公立高等学校の生徒を対象に実施した本調査の方法に関してまとめる。3.3 では本調査を通して明らかとなった結果を「辞書活用の有無」、「活用する辞書」、「辞書活用時」の3項目に分けてまとめたと同時に、それらの

考察をした。3.4では、3.3の結果と考察から分かったことをまとめた。その結果、本調査では以下のことが分かった。

- 辞書を活用するが、いつもではない。
- 生徒のほとんどが電子辞書、バイリンガル辞書を活用する。
- 目を通さない項目は、生徒がその意味を十分に理解していないからである。

#### 第4章 調査2 英語学習におけるモノリンガル辞書使用の可能性

英語学習者向けに作成されているラーナーズディクショナリーでは、単語の定義文を約3,000語で示されている。また、新学習指導要領の改訂に伴い、生徒は中学校卒業時に2,200～2,500語程度、高校卒業時に4,000～5,000語程度を学習する（文部科学省, 2017, 2018）。高校1年生から2年生の段階でモノリンガル辞書を活用するために必要とされる約3,000語を学習することとなる。そこで、本章では次期学習指導要領を見据え、公立高等学校の普通科と英語科の生徒を対象とした、高校生の段階でのモノリンガル辞書活用の可能性に関する調査を行った。

4.2では、某公立高等学校の普通科と英語科（仮称）を対象に実施した本調査の方法をまとめた。4.3では、本調査の結果と考察を「英英辞典を利用した長文読解における内容理解」、「調べた未知語と意味が分かった単語の関係」、「英英辞典活用後のアンケート結果」の項目に分けて見ていく。4.4では、本調査から明らかになった以下のことに関して言及した。

- 英語科の生徒は全体的に英英辞典を扱えた。

- 英英辞典の活用には、英検2級程度の英語力が必要。

#### 第5章 結語

本章では、5.1で本研究の要約を行う。5.2では、教育的示唆に関して書く。本研究から、3つの事が示唆される。

1つ目に、英語学習時に帯活動等を利用した辞書指導や辞書を用いた活動の必要性だ。英語は単語毎に他動詞・自動詞や可算・不可算名詞等の性質が異なる。しかし、本研究の調査1から、高校生のほとんどがそれらの項目に目を通していないことが分かった。このことから辞書指導が行われていないことが考えられ、その必要性が示唆される。

2つ目に、モノリンガル辞書を活用した英語学習の可能性だ。調査2から、被験者のうち英検2級合格者はモノリンガル辞書を効果的に扱えることが分かった。これは被験者の語彙力に起因すると考えられる。新学習指導要領による生徒が学習する語彙数の増加を踏まえると、改訂数年後にはモノリンガル辞書活用に必要とされる単語を生徒は学ぶ。このことから、今後、モノリンガル辞書を用いた英語学習は実施できると考えられる。

3つ目に、電子辞書の有効活用だ。調査1からほぼ全員の生徒が電子辞書を所持していることが分かった。電子辞書には、モノリンガル辞書とバイリンガル辞書の両方が搭載されており、学習者への金銭的負担を抑えることができる。これらのことから、モノリンガル辞書とバイリンガル辞書の両方を効果的に活用した指導を行えることが示唆される。

5.3では、本研究の今後の課題に関してまとめる。